

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立相知小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>学力の向上に関しては、教職員が指導プラン・コンプランに加った授業設計の研修や研修会の活用や授業の改善を通じて授業力が向上し成果が伸びている。本校は課題となった家庭学習の習慣化や読書活動の推進について果敢と取り組んでいるリーフレットや学校だよりなどを活用しながら家庭と連携してレベルアップを図ってきたい。</p> <p>・前年度はコロナ禍で授業参観や地域とのふれあい学習が制限された。しかし、本校は保護者や地域の方と一緒に子どもたちを育てていく活動が多いので、今年度はコロナ対策も考えながら社会に開かれた教育活動や心の教育を充実させていきたい。</p>
2 学校教育目標	やる気 やさしさ えがお あふれる相知小 相知小 ONE TEAM!

3 本年度の重点目標	<p>1. 子どもたちが毎日いきいきと笑顔で学校生活を送れるようにする。</p> <p>2. すべての職員が毎日いきいきと笑顔で教育指導ができるようにする。</p> <p>3. 保護者・地域と「本音」で語り合うことができるようにする。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・マイプランに特化した職員研修 ・定期的な唐津市学力向上アクションプランの自己評価						
	●交流活動の充実による思考力の向上	●児童に学習意識調査を行い、「交流活動をする事で学習がよく分かる」という質問に対して肯定的に答える児童の割合が80%以上	・交流活動に入る前に、児童の問題意識をそそえ、交流の目的を明確にさせて取り組ませる。						
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童が「友だちと協力している」、保護者が「学校は仲間づくりに取り組んでいる」の評価を80%以上にする。	・縦割りグループで清掃活動や栽培活動を行い、高学年の主体性や責任感を高める。 ・集会活動を計画的に実施し、児童に役割を与え、任せ、認める。 ・人権意識を高めるための取り組みとして、全校人権集会を年1回、なかよしタイムを年7回実施する。						
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止の取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答する職員を90%以上にする。	・いじめの認知・認知に対するマニュアルをもとに共通理解の周知徹底と見直しを行う。 ・いじめが起きないような学級風土づくり、学級経営についての研修を年3回以上行う。						
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上	・縄跳びカードの配布を行い、児童同士で意欲を高める声かけをする。 ・外遊びを奨励する呼びかけを行う。 ・運動場での遊び方の指導を行い、仲よく遊ぶことができる環境づくりに努める。 ・一輪車の乗り方のポイントシートを作成し、昼休みに運動場を巡回してアドバイスをする。 ・職員も積極的に外遊びをし、児童との交流を深めながら症例を行う。						
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○朝食を摂って登校する児童を95%以上にする。	・保健だよりや給食だより、アンケート等を通して、バランスのとれた食事を摂ることや、朝食を摂ることの大切さについて啓発を行う。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務改善及び教職員の働き方改革	●教育委員会方針に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日とする。 ・全職員で業務改善策を検討し、ボトムアップ方式での取り組みを推進していく。						

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○特別支援教育の体制作り	○対象児童の共通理解や、職員間の情報共有を図り、よりよい支援体制づくりにめざす。	・必要に応じて校内支援委員会を実施し、個々に合った支援対策を検討・実施する。 ・校内研修により全教職員の特別支援教育へのスキルアップを行う。						
○保護者・地域との連携	○育友会、各関係団体との連携強化による体験活動の充実	○生活科・総合的な学習の時間等に位置付けている体験活動を充実させることを通じて、地域の方との交流を図る。	・体験活動については、昨年度以上の達成回数を目標とするが、併せて内容の充実にも取り組み、よりよい学習の機会とする。						

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------